

## book review

## Benign Postreproductive Gynecologic Surgery

Marvin H. Terry Grody, M. D.

McGraw-Hill, Inc. ¥11,040

(医学書院・洋書部調べ)

わが国は現在超高齢化社会をたどりつつあり、20年後には65歳以上の人口の総人口に占める比率は23.6%にもおよび、先進国中第1位になると予想されている。

また、女性の平均寿命も急激に延長し、82歳を超えるに至っている。このことは、閉経後、女性が30年間も生活することになり、この時期の管理は、本人はもちろん社会にとっても重要な問題といえる。産婦人科学を全人的な Women's Medicine と考えた場合、閉経後の女性に好発する子宮脱や尿失禁の診断、治療、そして治療による患者の QOL の上昇は、今後ますます増加する中高年女性を対象とする実地臨床において最重要課題といっても過言ではない。本書は閉経後に好発する婦人科疾患の手術療法に着目してまとめられており、その大部分は子宮脱、膀胱脱、直腸脱、尿失禁の機能回復、および QOL の上昇を目的とした、手術法の解説が記載されている。

しかしながら、単なる技術の解説書ではなく、中高年女性の術前、術後の管理や合併症、創傷治癒、エストロゲンの作用など総論的内容も充実しているのが特色といえる。

とくに、尿失禁に関しては、医療の面でフローズアップされたのが最近というわが国に対し、urogynecology という概念が定着し、1910年代より、尿失禁の病態の解明と治療に取り組んできた欧米の産婦人科医との差を痛感する程、コンパクトながら詳しく記載されており、手術法に関しても、多くのバリエーションが具体的かつ、簡潔に述べられている。

また、タイトルに Benign とあるが、Premalignant として、子宮頸部や外陰の CIN や子宮内膜増殖症の治療にもふれられており、幅広い内容となっている。

高齢化社会を生きる我々産婦人科医にとって、学ぶべき点の多い一冊といえよう。

慶応義塾大学医学部産婦人科講師 塚崎 克己

## Ambulatory Gynecology (2nd ed.)

David H. Nichols and Patrick J. Sweeney

J B Lippincott Co. ¥13,760

(医学書院・洋書部調べ)

本書は全31章からなり、41名の執筆者が婦人科外来診療に重点を置き、その全般にわたって診断のポイントおよび治療法について解説している。臨床症状や診察所見に加えて病態生理学、薬理学、疫学などの解説も詳しく、疾病の背景および治療法の選択にあたっての考え方がおのずと理解されるようにまとめられている。要点は表にまとめられ、診療法・検査法および手術手技の実際は図や写真を適切に配置するなど、親切的な構成になっている。また、インフォームド・コンセントの重要性はもちろんのこと、予防医学の観点から、